2024年3月31日発行　通巻473号　ISSN1882-9643

JSAF

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION

2023 YEARBOOK

NO.119

www.jsaf.or.jp

AIRBUS
OMEGA
TOYOTA
Emirates
YANMAR
OFFICIAL SPONSOR
37TH AMERICA'S CUP BARCELONA
Challenging
The Power of
People

2024 年度を迎えるにあたり

公益財団法人 日本セーリング連盟
専務理事 安藤 淳

セーリングは、「自然環境の中で、性別、年齢、障がいの有無に関わらず一緒に楽しめ、また、誰もが自分に合った楽しみ方ができる」という価値を持つインクルーシブなスポーツです。また、セーリングは、国連が 2015 年に目標として掲げた「誰ひとり取り残さない、多様性と包括性のある社会」DEI（Diversity, Equity & Inclusion）の推進に大きく寄与するものであり、海の環境保全活動とあわせて「競技としてのスポーツ」に限らない価値を有するスポーツです。

公益財団法人日本セーリング連盟（以下、JSAF）は、この「セーリングスポーツの価値」を活力の源泉とし、JSAF の中長期 VISION「セーリングをもっと楽しく Maximize fun of sailing」の実現に向けセーリングスポーツの国内認知度を高め、セーリングスポーツのより一層の普及・振興・発展を推進します。そのために、会員の皆様と加盟する団体とともに、JSAF の力を結集して DEI や環境保全を推進し、先進的な競技団体になることを目指すとともに、セーリングスポーツの魅力発信、社会共生、収入源増加にむけた新しいチャレンジを行ってまいります。

以下に、2024 年度の JSAF の主な重点施策をご説明します。

Ⅰ．もっと身近になる（Easy Access）

(a) 地域社会の人々に「Start Sailing」を呼びかけ、セーリングの開始や再開の場を提供するとともに、海洋環境問題への取り組みを拡大し、この取り組みを社会に向けて広く発信します。

(b) ジェンダー平等と障がい者参加を含むインクルーシブな取組みを推進し、それらの成果を広く社会に発信します。

Ⅱ．関わり続ける（Open Community）

(c) 加盟する団体間や他の組織（ヨットクラブ、自治体や企業、個人、マリーナなど）と連携して、セーリングに関わるコミュニティを創設し地域振興に貢献します。

(d) 年齢や環境が変わっても誰もが自分に合ったセーリングを続けられるように、セーリングスタイルの多様性を守り、シーマンシップや生涯スポーツとしての価値を高めます。

(e) 全国のセーラーが満足できるレース品質を維持するため、オフィシャルズの人材育成を行うとともに、レースマネジメントの DX 化などを進め、持続可能な活動体制をさらに強化します。

Ⅲ．もっと強くなる（High Performance）

(f) パリ 2024 における 1 種目以上のメダル獲得という目標に向けて、種目特化型の強化策を深化させ、実行します。

(g) パリ 2024 以降を見据えた次世代選手育成プログラム（HOPE 育成プログラム）の内容をより高いレベルで充実させ、WS ユースワールドや Jr. ワールドにおいて入賞を狙え、かつアスリートとしての高い人間力を備えた選手を輩出していきます。

(h) ブリスベーン 2032 パラセーリング競技の復活に向け、障がい者セーリングの普及活動、選手強化活動を推進します。

(i) 愛知･名古屋アジア競技大会（愛知･名古屋 2026 大会）セーリング競技の開催、運営に向けて、愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会と連携して、JSAF としての運営体制の確立を図り必要な準備を開始します。

(j) セーラーのライフステージに合わせたキールボート、外洋艇など、総合的に JSAF の強化事業を推進します。

会員の皆様には、ぜひとも JSAF の活動にご理解を頂き、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

スポーツくじ
WINNER
toto
BIG

初日からトップを守った470級の岡田／吉岡組（右）とメダルレースで逆転した磯崎／関組

セーリング世界選手権大会＆杭州アジア競技大会で金・銀・銅×2

2023年に開催されたワールドセーリング主催の「アリアンツ・セーリング世界選手権大会」（オランダ・ハーグ開催）とアジアオリンピック評議会主催の「第19回アジア競技大会」（中国・杭州開催）にて、日本代表がそれぞれ金・銀・銅メダルを一つずつ獲得する活躍を見せました。

470級でパリ大会の国枠出場権を獲得

オリンピック種目が一堂に会し、4年に一度開催されるセーリング世界選手権大会。2023年8月8～20日に行われた今大会は、東京2020オリンピックが1年延期されたことに伴い前回から5年の周期となりましたが、初の試みとしてオリンピック種目（10種目）とパラ種目（4種目）が同時開催され、参加国は85カ国・地域、参加選手は1400人、参加艇数は900艇以上という大規模なイベントとなりました。また、パリ2024オリンピックの出場国枠選考がスタートする大事な大会でもありました。

その大会で初日からトップを独走し、メダルレース前に優勝を確実にしていたのが470級の岡田奎樹／吉岡美帆組です。岡田／吉岡組は余裕を持ってメダルレースに臨み5位でフィニッシュラインを切ると、高々とガッツポーズを掲げました。岡田選手は初めて、吉岡選手は2018年に吉田愛選手と組んで出場した女子470級での優勝に続き二度目の世界チャンピオンとなりました。

一方、3位まで5ポイント差の暫定6位でメダルレースをスタートした磯崎哲也／関友里恵組は、二度目のクローズレグで風のシフトを掴み、順位を一気に2位まで上げます。最終レグはイスラエル、スウェーデンと激しいバトルを繰り広げながら3位でフィニッシュし、逆転で3位となり銅メダルを手にしました。表彰台に日本勢が2チーム上る快挙で、この結果、日本はパリ2024

©JSAF広報委員会

10レース中トップ2回と存在感を見せたパラ種目男子ハンザ303級の丹羽巧選手

©JSAF広報委員会

開会式では丹羽選手と49erFX級の市橋愛生選手が日本チームを代表した

オリンピックの男女混合470級の出場国枠（1枠）を獲得しました。

日本人パラセーラー初 世界大会で銀メダル

一方、パラ種目はハーグから約30キロ離れたブラッサミューア湖で行われました。レース湖面からは風車と教会が望める風光明媚な場所に24カ国・地域から70人のパラセーラーが集結。日本からは男子ハンザ303級に丹羽巧選手が出場しました。

丹羽選手は初日からポーランドのPiotr Cichocki選手と抜いたり抜かれたりのトップ争いを繰り広げましたが、世界ランキング1位のCichocki選手には残念ながら一歩およばず。しかし、昨年の同クラス世界選手権3位から順位を一つ上げ2位となり、日本人パラセーラーとしては過去最高順位の銀メダルを手にしました。感極まり涙を見せた丹羽選手。その姿にコーチやサポーターも胸が熱くなりました。

パラ種目が同時開催された今回のセーリング世界選手権大会。ダイバーシティ&インクルージョンの重要性が再認識される中、セーリングは年齢や性別、障がいの有無に関わらず誰もが楽しめるスポーツであることを改めて認識するができた大会となったことは言うまでもありません。

全種目の大会成績はこちら QR

アジア大会では 3種目でメダル獲得

アジア大会のセーリング競技は9月18～27日、中国・寧波市セーリングセンターを拠点に開催されました。軽風と強い潮というコンディションの中、日本からは8種目に12名の代表選手が出場。男女混合470級の岡田奎樹／吉岡美帆組が金メダル、女子49erFX級の田中美紗樹／永松瀬羅組が銀メダル、男女混合Nacra17級の飯束潮吹／西田カピーリア桜良選手が銅メダルを手にしました。

470級の岡田／吉岡組は世界チャンピオンの実力を発揮し、初日から一度もトップを明け渡すことはなく貫禄勝ち。一方、中国と同点首位で最終日を迎えた女子49erFX級の田中／永松組は、実に惜しい銀メダルでした。

最終日の第1レース、中国、日本ともにアウターからのスタートを狙いましたが、潮の影響もあって中国艇に有利な展開となり田中／永松組は4位に。1位となった中国に逆転を許してしまいます。最終レースは田中／永松組がトップフィニッシュする意地を見せましたが、2ポイント差で2位となりました。

今回からアジア大会種目となった男女混合Nacra17級。飯束／西田カピーリア組は前半出遅れましたが、第12レースでトップフィニッシュするなど後半に成績を上げ、表彰台に上りました。

新型コロナウイルスのパンデミックにより1年延期された今大会は、シングルハンド種目（ILCA6&7級、iQFOiL級、Formula Kite級）のパリ2024オリンピック出場権をかけた国枠選考大会でもありましたが、今大会での出場権獲得とはなりませんでした。

©JSAF/オリンピック強化委員会

杭州アジア大会でメダルを獲得した代表選手。左から銀メダル獲得の女子49erFX級田中選手、永松選手、男女混合470級で金メダルを獲得した岡田選手、吉岡選手、銅メダルを獲得した男女混合Nacra17級の西田カピーリア選手、飯束選手

全種目の大会成績はこちら QR

2023年度から始まった新事業

New Business Starting in 2023

表彰式に臨席したJSAF Class/Club of the Year 2023 presented by ENEOS賞受賞の皆さん。左からプレゼンターのENEOS株式会社・田村厚子さん、ENEOS株式会社・岡田滋敬さん、地域社会部門賞の鹿児島オーシャンヨットクラブ・田中葉子さん、環境部門賞の日本スナイプ協会・杉山武靖さん、アクティブ部門賞の日本VRIクラブ・木暮俊貴さん、ヤング部門賞の日本オープンスキフクラス協会・諏訪禎男さん、日本セーリング連盟会長・馬場益弘

JSAF Club/Class of the Year 2023
Presented by ENEOS

初年度は15団体がノミネート。環境部門はJSAF環境委員会で審査を行い、その他の部門は、常任委員会メンバーで審査したのち、12月の理事会で表彰を決定しました。

日本セーリング連盟は、ENEOS株式会社のご協力の下、セーリングを始める機会の創出、次世代セーラーの育成を通じた心身ともに健全な社会づくり、安全にスポーツに取り組める環境づくりなどを目的に、2023年度に2つの事業を立ち上げました。

一つはセーリング界発展に向け特に優秀な取り組みするヨットクラブ（セーリングクラブ）やクラス協会などの団体を讃える表彰制度「JSAF Club/Class of the Year 2023 Presented by ENEOS」であり、もう一つが各地で行われるディンギー、キールボートの既存の大会をシリーズ化し、ジュニアからシニア、障がい者まで老若男女を呼び込み、インクルーシブ&コンペティティブなセーリングイベントを普及・発展させる取り組みである「JSAF Sailing Series Presented by ENEOS」です。

ここでは、受章した4団体をご紹介します。

地域社会部門賞（Community Category Award）
鹿児島オーシャンヨットクラブ

1989年設立、活動35年目を迎える鹿児島オーシャンヨットクラブは、2024年1月現在会員数71名、会員年齢は25～75歳までと幅広い世代が活動しています。

鹿児島市が購入した10艇のスナイプでヨット教室を行ったことがきっかけとなり、市民をセーリングに誘う活動を継続。週末に行う「ヨット教室」と市主催の「ヨットとふれあう体験帆走」など、これまでに1万5００人ほどの鹿児島市民にセーリングの楽しさや海の魅力、海洋環境保全の大切さなどを実際の活動を通じて広めてきました。またクラブ発足から毎月欠かさず「オーシャン新聞」も発行しています。

田中俊一会長からは、「クラブの目的は〝海を通じて自然を愛する精神を養い、会員相互の親睦と健康の増進、ヨット技術の向上、ヨット人口の拡大を図る〟です。今後も〝世代、性別、障がいを問わず、会員の多様性を高める活動に尽力〟していく所存です」という力強い言葉をもらっています。

環境部門賞（Green Category Award）
一般社団法人 日本スナイプ協会

日本スナイプ協会は約50年の活動歴を持つ伝統あるクラス協会です。令和元年5月に一般社団法人化され、現在、約1０００名が会員登録をしています。

協会内に環境委員会を設置しSDGs、環境への取り組みを積極的に行っていること、また予選大会も含めると年間20以上の大会を主催しており、それらの大会では、

1 海上へはマイボトルの持参を推奨
2 海上へはプラスチックバッグ、コンビニ袋等は持参しないことを周知
3 海上での喫煙は控えるよう要請

を行っています。

また全日本大会ではSDGsアプリを利用し、ミックス選手権ではCO2削減効果のあるドローンマークを採用するなど、先進性、凡用性、インパクト、独創性があると評価されました。

学連の制式艇ということもあり、日本は世界的にみてもスナイプ級が活発に活動している国の一つです。そのため、国内だけでなく国際的なスナイプコミュニティへの波及効果も期待されます。

アクティブ部門賞（Active Category Award）
日本VRIクラブ

セーリングのeスポーツゲーム「バーチャル・レガッタ・インショア（VRI: Virtual Regatta Inshore）」を用いて、毎週の定期レース、各種大会、練習会やオフ会などを主催しているのが、日本VRIクラブです。コロナ禍で直接対面やレース開催が難しい2020年7月に有志によって設立され、現在では社会人・学生（高校生・大学生）、年齢・性別・水域・艇種・障がいの有無を問わず、270名がコミュニケーションサーバーに登録しています。

ワールドセーリング主催で毎年開催される「ネーションズカップ」の代表チームを2020～2023年に輩出しており、また2023年にはIOCが主体となって開催された「オリンピックeスポーツシリーズ」で入賞するなど、メンバーからは世界の舞台で活躍するeセーラーが育っています。

一方でeセーリング初心者へのサポートや続けやすい環境を提供することで、ユースのセーリングスキルの向上をはかり、また多様で幅広いライフステージにあるセーラーをつなぎ止め、セーリング界への回帰や呼び戻す役割も果たしています。

ポストコロナにおいては、体験会、ジュニアクラブや障がい者団体への講座開催などの実地交流を活発に行い、eSailing委員会主宰の全日本選手権で大会運営支援・解説などを行い、普及・啓発活動も活発に行っています。

ヤング部門（Young Person's Category Award）
日本オープンスキフクラス協会

「楽しいセーリング」をモットーにジュニア育成を行う日本オープンスキフクラス協会。発足は2006年、取り回しが楽でスピード感のあるセーリングが楽しめるオープンスキフ級を約30艇所有し、兵庫県西宮市を拠点に活動しています。

毎年約100人へのセーリング無料体験会や、近隣小学校の校外学習としてセーリング体験を行うなどの事業を展開し、興味がある子どもたちにはセーリングクラブへ勧誘するなど、ジュニアの育成を行なっています。

各地のクラブが集まる公式戦、春のジャパンカップ、秋の全日本選手権をそれぞれ年に一回ずつ開催。毎年開催される世界選手権への日本選手派遣も行なっています。

日本オープンスキフ協会のコーチとしてジュニアの育成・普及に努める田中拳太郎さんは、「今後は日本各地のマリーナやヨットクラブに〝出前講座〟の形で艇とコーチを派遣し、さらに活発に普及活動を行う計画です。大会はほぼ全艇チャーターなので、身ひとつで参加できます。また日本初のオープンスキフ級世界選手権が2025年に西宮で行われますので、ぜひクラスの活動に注目してください」と話しています。

JSAF Sailing Series Presented by ENEOS

初年度は2部門で6大会を実施
計269チーム、500人あまりの選手が参加

©第12回ピース・カップ/平井基博

©和歌浦セーリングフェスティバル2023/山崎武敏

2023年度シリーズ

インクルーシブラウンド

- **ピース・カップ：**2023年9月23～24日・広島観音マリーナ（4種目59チーム・参加72人）

コンペティションラウンド

- **和歌浦セーリングフェスティバル：**2023年10月28～29日・和歌山セーリングセンター（2クラス・参加26チーム）
- **全日本420級セーリング選手権大会：**2023年11月3～5日・和歌山セーリングセンター（54チーム・参加108人）
- **全日本スナイプ級ミックスヨット選手権大会：**2023年11月11～12日・福岡市ヨットハーバー（参加28チーム・56人）
- **全日本オプティミスト級セーリング選手権大会：**2023年11月16～19日・高松市ヨット競技場（参加84人）
- **全日本モスクラス選手権大会：**2023年11月23～26日・葉山港（参加21人）

Topics 1

小笠原レース2023

【期　間】2023年4月22日～28日
【開催地】神奈川県三崎～小笠原父島二見港
【主　催】(公財)日本セーリング連盟(主管　外洋常任委員会)、日本オーシャンセーラー協会
【協　力】JSAF外洋東京湾、JSAF外洋三崎、三浦外洋セーリングクラブ、JSAF外洋湘南、JSAF外洋沖縄

******** RACE INFORMATION **********

RACE Name ogasawara2023
Class IRC Class (Total)
Course Type offshore
Race condition Swelly wave 0.5 - 3m
Date 2023/4/23
Start 11:00:00
Time Limit NA

JAPAN SAILING FEDERATION

JSAF IRC Inside

******** Entry List and RESULT ********

JSAF

	Sail No.	Yacht Name	TCC		着順	Day	FINISH	所要時間	(秒)	修正時間	ペナルティ	順位
1	JPN 146	KIHO	1.236		1	4/25	21:27:37	58:27:37	210457	260,125	----	1
2	JPN 380	THETIS-4	1.040		2	4/26	10:41:35	71:41:35	258095	268,419	----	2
3	JPN 5910	ZERO	1.054		3	4/26	12:02:01	73:02:01	262921	277,119	----	3
4	JPN 1403	BITTER END	1.011		4	4/26	23:56:18	84:56:18	305778	309,142	----	4
5	JPN 6089	MIROKU II	1.113		5	4/27	0:17:44	85:17:44	307064	341,762	----	5
6	JPN 6778	GASPARD 3	1.078								RET	
7	JPN 6687	STARDUST	1.100								RET	

2023年4月28日に小笠原・父島で行われた表彰式

小笠原レース2023は、これまでと違い三浦半島小網代沖から小笠原諸島父島まで南下するコースのレースとした。

小笠原レースは約500マイルの外洋レースであるため、安全対策の面でスペシャルレギュレーションOSRカテゴリー2をクリアしなければならず、しかもOSRで定められているサバイバルトレーニングを受講している乗員が30％以上いなければ参加資格を与えられないなど相当ハードルの高いレースである。

当初、参加艇が少なく大会そのものの成立が危ぶまれたが、最終的に7艇の参加であった。

4月23日10時55分予告信号、スタート前には海外のロングレースで採用されているストームジブとトライスルの展開などの義務が課せられた。それは後に大いに役にたった艇もあった。

天気は相当強風が持続する予想であった。後から聞くと40ノットオーバーにも上がったとのこと。そのような中でいやな予感が当たった。1艇は大波をくらったはずみでクルーが船内で転倒し負傷、もう1艇はワイルドジャイブによるブームの破損。荒波の中でのメインセールのダウンとトライスルの装着など体力が限界まで消耗したものと思われる。2艇は八丈島に避航し無事舫をとった。

残る5艇は順調に父島のフィニッシュラインを目指す。ラインオナーは〈貴帆〉で歴代最速の2日と10時間27分37秒であった。その後も順次ゴールを切る。レース委員会としては安全にスタートさせ確実にフィニッシュタイムをとることを最大のミッションとしたものの、フィニッシュ本部船はなく、島の高台にあるウエザーステーションと湾内の浮標の見とおし線をラインと決めていたが、霧や雨の心配も一方ではあった。

しかし、天が味方したのか最終艇が深夜0時を回り無事タイムをとったところで豪雨が一気に降りだした。

〈貴帆〉が総合優勝を果たした。20代の2人の女性クルーは北田浩艇長の愛のムチに相当体力的にも精神的にも苦労したに違いない。ただ2人にとっては今回のレース、人生にとって大変貴重な経験をしたと思う。

小笠原村の人々はこのレースを大変楽しみにしておりウエザーステーションには何時も数人の村民がフィニッシュする艇を昼夜、限らず眺めていた。また、島内の民宿や飲食店、ツアー会社などこの小笠原レースのポスターを張つけており村民あげてのレースは間違いない。

最後に小笠原の海は言うまでもなく大変綺麗でイルカやクジラの親子が泳ぎの練習をしている姿があちらこちらで見られた。次回は2025年の開催が決定した。

多くの参加者で南の島に向かう迫力レースにしたい。

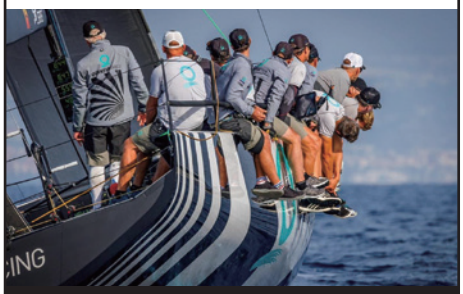
（小笠原レース2023レース委員長　石川彰）

HARKEN
（輸入元）
ハーケンジャパン株式会社
ハーケンサプライ株式会社
MAIL　supply@harken.jp
WEB　harken.jp

QUANTUMSAILS
One Design~Big Boat
すべては一歩から

Optimist　Snipe

- TO THE NEXT CHALLENGE -



Canvas Work-Watts Bag
Fender Cover, Bo's'n Chair, etc.

クァンタム・ジャパン
www.quantumsails.com
www.wattsmarine.jp
info@wattsmarine.jp

（株）セイルス・バイ・ワッツ・ジャパン
本社ロフト
〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町8-40
電話：046-882-5451　Fax：046-882-4319
関西営業所
〒662-0933 兵庫県西宮市西波止町1-2 マリンスクエア M-1
電話：0798-23-6410

Topics 2

2023外洋ダブルス（ダブルハンド）日本選手権

【期　　間】2023年4月29日～5月5日
【開 催 地】和歌山県和歌山市～愛知県蒲郡市
【共同主催】（公財）日本セーリング連盟（主管 外洋常任委員会）
【協　　力】JSAF外洋東海、JSAF外洋内海、和歌山県セーリング連盟、㈱ラグナマリーナ、ラグナマリーナヨットクラブ、NPO法人和歌山セーリングクラブ、和歌山マリーナシティヨット倶楽部

******** RACE INFORMATION **********

RACE Name 外洋ダブルス日本選手権2023
Class IRC Class (Total)
Course Type Distance 200nM
Race condition
Date 2023/5/1
Start 10:00:00
Time Limit

IRC　JSAF IRC Inside　JSAF

******** Entry List and RESULT ********

	Sail No.	Yacht Name	TCC		着順	Day	F INISH	所要時間	(秒)	修正時間	ペナルティ	順位
1	2500	KLC HORIZON 6	0.974			5/3	15:09:14	53:09:14	191354	186379	----	1
2	5830	SHIKADAI	1.003			5/3	15:27:39	53:27:39	192459	193036	----	2
3	6982	vicke	1.012			5/3	15:44:09	53:44:09	193449	195770	----	3
4	5997	SIESTA	1.035			5/3	15:22:51	53:22:51	192171	198897	----	4

No. of entry:IRC 4　JSAF IRC 委員会

ラインオナー〈KLC HORIZON 6〉
総合優勝〈KLC HORIZON 6〉、2位〈SIKADAI〉、3位〈VICKE〉
ミックスダブルス1位〈KLC HORIZON 6〉
男性ペア1位〈SIESTA〉

総合優勝した〈KLC HORIZON 6〉の
邨瀬愛彦さん（右）、高原奈穂さん

2023年5月、第3回となる外洋ダブルス（ダブルハンド）日本選手権が行われた。今回も前回と同じ4艇がエントリーし、それぞれの目標をもってスタートラインに並んだ。コースは、和歌山マリーナシティー沖をスタートし、淡路島の南にある沼島を反時計回りに廻航し、紀伊半島を南下、潮岬を回航し北上、伊勢沖から伊良湖水道を通過し、愛知県蒲郡市のラグナマリーナ沖にフィニッシュする200マイルである。

スタート時は南南西1・5ノット、晴天。今回も微風でのスタートとなった。序盤は風が弱くゆっくりと進んでいたが、沼島を回航する頃には風速も上がり始め、第2回大会と同じく4艇は気の抜けない接近戦で、2日の未明に潮岬を回り北上を始めた。しかし夜が明け始めると予報通り風が落ち、熊野灘で忍耐の1日を過ごすことになった。3日朝、〈VICKE〉と〈KLC HORIZON 6〉が先行し、何とか伊良湖まで辿り着いたが、相変わらず弱い風、向い潮と苦しみは続き、後続の2艇も追いついてきた。三河湾に入っても軽風で最後までデッドヒートが続いた。

トップフィニッシュは〈KLC HORIZON 6〉、所要時間は2日間5時間09分14秒、修正でも1位で二連覇を達成した。2位〈SHIKADA〉、3位〈VICKE〉、4位〈SIESTA〉となった。昨年と同じ顔触れでのレースだったが、53時間走って35分差で全艇がフィニッシュするという、ロングレースではあるがひと時も気の抜けないセーリングを満喫されたのではないか。

スタート前、参加艇にヒアリングを行い外洋ダブルスの魅力を語っていただいた。「変針が多く、地形による風変化が複雑なコースで、ゲーム性が高く、200マイルと長すぎない距離でもハラハラ、ドキドキのレースができる」「1人当たりのコミットメントが高く、フィニッシュ後の達成感が大きい」「レースを通して成長できる」「2人ならではの気軽さを何より魅力に感じる。何があっても2人で協力して、お互いの特性を生かしてトラブルを解決していくのも楽しさの1つ」「インショアのように慌しくなくマイペースで乗ることができ、島や半島の景色を間近かで見ながらセーリングを楽しめるところがとても良い。晴れたナイトセーリングでは満点の星空が自分たちをつつみこむようで感動する」「レースは厳しく難しい所もあるが、完走できただけでもお腹いっぱいの満足感が得られる達成感も魅力」そして、多くの皆さんに参加して欲しいとの声が届いた。

第4回大会も2024年5月1日に同じコースでスタートする。

（2023外洋ダブルス日本選手権レース委員長　中村和哉）

地球一周3万2282マイル Globe40完走・総合3位〈MILAI〉鈴木晶友さん、中川紘司さんに聞く

2023年4月8日、二人の日本人を乗せた一隻の外洋艇が、フランス大西洋岸の町、ロリアンに帰ってきました。船体には〈MILAI〉の文字。そう、日本語の「未来」が語源です。2022年6月にスタートしたダブルハンドでの世界一周レース「第1回グローブ40」に出場し、見事完走、総合3位という成績を残したスキッパーの鈴木晶友さんと、中川紘司さんに、日本セーリング連盟は2023年度の定期表彰にて「優秀競技者賞」を授与しました。波乱万丈のレースの様子をじっくりとお聞きください。

写真提供／MILAI　インタビュー／西朝子（広報委員会）　インタビュー実施日：2023年5月10日

9カ月ぶりにフランス・ロリアンに帰港した〈MILAI〉と鈴木晶友さん・中川紘司さん

中川紘司（ナカガワコウジ）／チームオーナー、コスキッパー

1980年3月4日生まれ兵庫県出身員
2000年明石工業高等専門学校卒業
2003年愛媛大学工学部卒業
幼少期からセーリングを始め、20歳でヨットから離れるも40歳を目前に、再び海の世界にチャレンジ。鈴木をミニトランザット時から応援し続け、今回は自身の夢の一つである外洋レースへの参加をGlobe40で叶えた。NTTグループの株式会社PhoneAppli取締役副社長というビジネスマンの顔も持ち、Glove40参戦中もパソコンを持参し部下からの連絡に対応した?とかしなかった?とか。いずれにしても最前線でビジネスをする二刀流セーラーである。

鈴木晶友（スズキマサトモ）／スキッパー

1985年8月12日生まれ千葉県出身
2004年千葉経済大学付属高等学校卒業
2009年法政大学経営学部卒業
幼少期にセーリングを始め、全日本選手権、世界選手権などで実績を積む。大学卒業後は（株）日立ソリューションズに就職するも、幼少期に芽生えたヨットでの大陸間横断の憧れを忘れられず退職。ミニトランザット2019（単独大西洋横断ヨットレース）で大西洋横断の達成を通して叶える。その後"世界の海を見てみたい"とGlobe40に挑戦、完走。現在はDMG MORI Sailing Teamに所属し、コーチとして若手育成に携わっている。

シャチの手荒い歓迎!?で始まった世界一周レース

チームオーナー兼Coスキッパーの中川紘司さんは、幼少期からセーリングを始め、20歳でヨットから離れるも40歳を目前に再び海の世界にチャレンジした、自称"出戻りセーラー"です。スキッパーである鈴木晶友さんがミニトランザットに挑戦した時から応援し続け、今回は自身の夢の一つである外洋レースへの参加をGlobe 40で叶えました。中川さんはITベンチャー企業の取締役副社長であり、最前線でビジネスをする二刀流セーラーでもあります。

全レグに乗船したスキッパーの鈴木晶友さんも幼少期にセーリングを始め、OP、スナイプ、モスなどに乗り継ぎながら全日本選手権、世界選手権などで実績を積みました。大学卒業後は一般企業に就職するも、幼少期に芽生えたヨットでの大陸間横断の憧れを忘れられず退職。ミニトランザット2019（単独大西洋横断ヨットレース）で大西洋横断の夢を叶え、そこからさらにのめり込み、世界の海を見たいという野望を持ってGlobe 40に挑戦し完走した外洋セーラーです。

世界一周レースを完走した〈MILAI〉全長40ftのクラス40

――まずは完走おめでとうございます。プロローグレース（フランス・ロリアンから本スタートのモロッコ・タンジェまで）から好調で前半戦はワクワクしましたが、途中からドキドキ、最後はヒヤヒヤするような世界一周でしたね。無事にフィニッシュできてお二人もホッとしたのではないでしょうか？

中川：スタート前からドラマチックな出来事がありました。フランスのロリアンから本スタート地点なるモロッコまでは練習を兼ねているので、ダブルハンドではなくてもいいのです。〈MILAI〉も私を含め、各レグで乗り変わる多国籍のコスキッパーたち総勢4人が乗り込み順調に走っていました。ジブラルタル海峡まで10キロほどになった時です。遠方にイルカのような集団を見つけたと思ったら、あっという間に追いつき〈MILAI〉に体当たりをしてきました。

鈴木：皆、最初は何が起こったか理解できませんでした。でもすぐにシャチに襲われていると分かりました。実はジブラルタル海峡を航行するセーラーの間で、2年ほど前から突然、シャチがセールボートを襲撃するようになったと噂になっていたのです。でもまさか自分たちが攻撃されるとは思いませんでした。シャチは全長12mの〈MILAI〉の半分ほどの大きさがあります。15分ほどで何事もなかったかのように去っていきましたが、怖かったですよ。シャチに襲われて沈没したヨットもいますからね。

中川：フィニッシュまであと僅かだったため大事には至りませんでしたが、フィニッシュしてから、ラダーに大きなダメージがあることが分かったのです。しまった！と思いましたが、同時に"シャチに舵をかじられる"というダジャレも思いつきました（笑）。

公式サイトへ続く

〈MILAI〉の世界一周はまだまだ続きます。鈴木晶友さん、中川紘司さんのインタビュー全文はこちらから

Topics 3

セーリング競技の見える化を探る インカレのライブ配信 実証実験結果

セーリング競技大会の観戦は、海上で実施する競技環境のため、競技状況や臨場感・応援環境・一体感などの理解が難しく、最新技術の導入には多大なコストがかかります。放映が実施される大規模大会以外では、身近な関係者（大学関係者、保護者、知人・友人等）のオンサイト・オンラインでの観戦が難しくなっており、長らくセーリング普及の阻害要因になっています。

セーリングのSee Sports（みるスポーツ）としての価値向上のためには、簡易な仕組みで観戦体験を提供することが望まれています。そこでJSAFでは、導入が期待されるドローン映像、実況・解説を用いた配信ストリーミング等の導入可能性とその効果、あるべき品質・収益性を評価するため、2023年度は参加者・観戦者の多い全日本インカレにて検証テストを実施しました。

（経営企画室 See Sport 実現チーム）

ライブ配信されたインカレの様子

実証実験の概要

日時:2023年11月4日（土）～5日（日）
場所:福岡県福岡市ヨットハーバー（小戸）
大会:全日本学生ヨット連盟主催 第88回全日本学生ヨット選手権大会
参加:470級・スナイプ級団体戦、各24校・72艇エントリー
内容:現地で撮影したドローン映像に、東京都千代田区の特設スタジオで実況・解説を組み合わせて配信。視聴した選手・運営関係者、ヨット部OBOG、家族・親戚等にアンケートを実施

実証実験の結果

		11月4日（土）	11月5日（日）	合計
再生回数	総再生数（～11/21 PST）	7,980回	8,501回	16,481回
	うちライブ配信中再生回数	4,970回	5,451回	10,421回
再生回数	ユニーク視聴者数（～11/21 PST）	3,764人	3,901人	–
	うちライブ配信中ユニーク視聴者数	2,114人	2,340人	–
	※ライブ配信中同時視聴最大数	430人	602人	–
エンゲージメント	総再生時間（～11/21 PST）	1,403時間	2,284時間	3,687時間
	うち、ライブ配信中総視聴時間	1,137時間	1,712時間	2,849時間
	ライブ配信中チャットコメント総数	237投稿	459投稿	696投稿

総再生回数は1万6000回超、ユニーク視聴者数はそれぞれ20002人超に上りました。配信中総視聴時間は3000時間弱、コメント投稿数は700投稿弱でした。

継続的なリアルタイム配信の実施希望は、全体では実施してほしいと回答した人が98%、どちらとも言えないが1・4%、実施しなくて良いと回答した人が0%で、ライブ配信に満足していないと答えた層でもぜひ実施してほしいと回答した人が100%でした。アンケート結果の詳細と今後の動画配信に向けての改善点などについては、公式サイトをご覧ください。

Topics 4

500mlペットボトル換算で約910万本分

SDGs貢献アプリで可視化
JSAF会員の2023年CO2削減量は約9.1トン

環境委員会は、セーラー・競技大会のSDGs貢献の可視化・評価を簡易に行うウェブアプリ「SDGs環境アプリ」の開発を完了し、2023年度に4大会でトライアルを実施しました。

本アプリでは、大会参加選手・運営関係者の環境保全行動にポイント付与してランキング化でき、行動によるシングルユースプラスチックの代替による二酸化炭素削減換算量を算出できます。2023年度のトライアル登録者は45人、削減換算量は3806g、登録者一人当たり平均は84・6gでした。

大会名	登録者数	CO2削減換算量
第76回全日本スナイプ級ヨット選手権大会	13	438g
全日本470級ヨット選手権大会	13	1,770g
第24回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会	13	1,321g
RS JAPAN OPEN 2023 兼 RS aero 全日本選手権	6	277g
合　計	45	3,806g
登録者一人当たり平均		84.6g

2023年度の実施結果に基づき、会員一人あたりのセーリング活動におけるシングルユースプラスチックの代替による二酸化炭素年間削減相当量を試算すると1.0kg、連盟の大会実施時の年間削減量を試算すると約760kg（一般家庭電力消費量半年分弱）、連盟の年間のセーリング活動の年間削減量を試算すると約9・1トン（一般家庭電力消費量5世帯1年分）となります。

2024年度は、貢献が一覧化できるダッシュボード機能を追加予定です。さらに、公認大会の環境キャンペーン補助金の補助要件に位置づけ、より活用を促進します。また、各種調査によって試算の精度向上に努めます。引き続きのご協力をお願い致します。

（環境委員会）

試算項目	シングルユースプラスチックの代替によるCO2年間削減相当量
会員一人あたりのセーリング活動による年間削減相当量	約1.0kg
連盟の大会実施時の年間削減相当量	約760kg
連盟のセーリング活動の年間削減相当量	約9.1トン

※CO2 1トン＝一般家庭電力消費半年分

参考 試算式

会員一人あたりの年間削減相当量
＝大会でのCO2削減量実績／登録者数×年間セーリング回数
＝84.6g×12回
＝1.0kg
※年間12回（月1回）のセーリング活動を、大会と同様に実施と仮定（会員アンケート2021結果より設定）

会員全体での大会時の削減相当量
＝大会でのCO2削減量実績／登録者数×会員数
＝84.6g×約9,000名
＝760kg
※年間平均1大会に参加と仮定

連盟の年間のセーリング活動の年間削減相当量
＝大会でのCO2削減量実績／登録者数×年間セーリング回数×会員数
＝84.6g×12回×約9,000名
＝約9.1トン
※年間12回（月1回）のセーリング活動を、大会と同様に実施と仮定（会員アンケート2021結果より設定）

Topics 5

オリンピックeスポーツシリーズ2023 e-Sailingで日本代表が活躍!

国際オリンピック委員会（IOC）が主体となり、国際競技連盟（IF）やゲーム会社と連携して行われた、世界規模のバーチャル&シミュレーションスポーツ競技「オリンピックeスポーツシリーズ」の対面式決勝戦が2023年6月22日～25日にシンガポールで初開催されました。

e-Sailing競技の決勝戦には、5000人以上が参加した世界各地の予選を勝ち抜いた11名が集まり、日本からは古川悠航選手と木暮俊貴選手の2名が出場。予選7レース、上位5名によるメダルレースを経て、フランスのTim Carpentier選手が初代王者に輝きました。

古川選手、木暮選手ともにメダルレースには進出できませんでしたが、古川選手は第2、第3レースでトップフィニッシュ、木暮選手も第5レースでトップフィニッシュするなど日本人eセーラーの存在感を大いに示し、古川選手は総合6位、木暮選手は総合7位と健闘しました。

古川選手は勝進出者の中で最年少の20歳（開催時）で横浜国立大学ヨット部所属。日本のeセーリング界第一人者の木暮選手は都立大学ヨット部OBです。リアルとバーチャルの違いについて、「レース中の緊張感はリアルもバーチャルも同じで、ほとんど違いなくレースに集中できました。気持ち的には、他のeセーラーが“みんなで頑張っていこうぜ”という感じで笑顔だったので、緊張はあったものの比較的リラックスしてレースを迎えられました」と古川選手。

木暮選手は「前日にしっかり睡眠を取ったり、体調管理に気をつけたりはリアルセーリングと同じだと思います。今年は好成績が続いているおかげで、レース中は堂々としていられました。ただオリンピックイベントという、リアルレースでは経験したことのない規模の大きさから、レース前はかなり緊張しました」と話してくれました。

世界中の仲間と繋がりレースができるeセーリング。リアルもバーチャルも楽しみながら二人に続くeセーラーの皆さんを応援しています。

（eSailing委員会）

総合６位の古川悠航選手

総合７位の木暮俊貴選手

二人の参戦コメントは
公式サイトから

SAILFAST
ジュニア・ユースセーラーを応援しています

2024年度 全日本選手権等セーリング競技日程

（2024年4月1日～2025年3月31日）

最新情報は公式サイト「Event Calendar」でチェック!

2024年3月21日現在

期 間	大会名称	会 場	主催団体等
2/17～2/21	2024 iQFOiL International Games 兼 全日本選手権大会	沖縄県宮古島市前浜海岸	日本ウインドサーフィン協会
3/30～3/31	2024年度JSAFユースセーリングチャンピオンシップ JSAF World Sailing Youth Sailing World Championships 選考大会	和歌山セーリングセンター	JSAF 和歌山県セーリング連盟
4/28～5/8	沖縄-東海ヨットレース2024	沖縄県与那原町与那原マリーナ沖 ⇒ 愛知県蒲郡市ラグナマリーナ沖	JSAF外洋東海
4/29～5/5	外洋ダブルス日本選手権2024	和歌山県和歌山マリナシティ ⇒ 愛知県蒲郡ラグナマリーナ	JSAF
4/30～5/6	アジア・オセアニア420選手権	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	国際420協会 JSAF
5/23～5/26	ASAF Sailing Cup JSAF江の島オリンピックウィーク2024	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	JSAF
6/8～6/9	第39回全日本スナイプ級ヨットマスターズ選手権大会	富山県 新湊マリーナ	日本スナイプ協会
7/5～7/7	第33回全日本A級ディンギー選手権大会	神奈川県 葉山新港	日本A級ディンギー協会
7/25～7/28	第65回 パールレース	三重県南伊勢町五ケ所湾沖 ⇒ 神奈川県藤沢市江の島ヨットハーバー沖	JSAF外洋東海
7/26～7/28	第22回全国中学校ヨット選手権大会	富山県 新湊マリーナ	全国中学校ヨット選手権大会連絡協議会
8/12～8/16	令和6年度全国高等学校総合体育大会ヨット競技 第65回全国高等学校ヨット選手権大会	和歌山セーリングセンター	和歌山県セーリング連盟 全国高体連ヨット専門部
8/17～8/18	第51回全日本自治体職員ヨット競技大会	豊田自動織機 海陽ヨットハーバー	全日本自治体職員ヨット連盟
8/21～8/25	第77回全日本スナイプ級ヨット選手権大会	鳥取県境港市 境港公共マリーナ	日本スナイプ協会
8/21～8/25	全日本470級ヨット選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本470協会
9/5～9/8	2024年度全日本学生ヨット個人選手権大会 2024年度全日本学生シングルハンドレガッタ	豊田自動織機 海陽ヨットハーバー	全日本学生ヨット連盟
9/6～9/8	第1回フォーミュラーカイト全日本選手権大会 第1回カイトオープンクラス全日本選手権大会 第1回ウイングフォイルオープンクラス全日本選手権大会	和歌山県和歌山市和歌山セーリングセンター 浜の宮海水浴場和歌浦湾	日本カイトボード連盟
9/7～9/8	第23回全日本チームレース選手権大会	広島県広島市 観音マリーナ	広島県セーリング連盟
9/7～9/8	ウインドサーファークラス全日本選手権大会	神奈川県藤沢市片瀬東浜	日本ウインドサーフィン協会
9/13～9/15	第40回Laser Class 全日本マスターズ選手権大会	福岡市ヨットハーバー	日本レーザークラス協会
9/14～9/16	全日本オプティミスト級チームレース選手権大会	広島県広島市 観音マリーナ	日本オプティミストディンギー協会 広島県セーリング連盟
9/14～9/16	高松宮妃記念杯第70回全日本実業団ヨット選手権大会 第24回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会 2024年全日本セーリング選手権大会	滋賀県立柳が崎ヨットハーバー 大津市柳が崎特設セーリング会場	JSAF国体委員会 セーリングスピリッツ協会 滋賀県セーリング連盟 全日本実業団ヨット連盟
9/20～9/23	日建レンタコムカップ 第32回全日本学生女子ヨット選手権大会	神奈川県 葉山港沖	全日本学生ヨット連盟
9/20～9/23	第57回全日本モスクラスヨット選手権	福岡市ヨットハーバー	日本モスクラス協会
9/21～9/23	全日本ミドルボート選手権	静岡県スパマリーナ熱海	日本ミドルボート協会
9/21～9/22	全日本49erクラス選手権大会 全日本49erFXクラス選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本49erクラス協会
9/21～9/23	2024年ひろしまピースカップ	広島県広島市 観音マリーナ	広島県セーリング連盟
9/28～10/1	国民スポーツ大会セーリング競技会	佐賀県唐津市 佐賀県ヨットハーバー	JSAF国体委員会
10/5～10/6	テクノ293クラス全日本選手権大会	神奈川県鎌倉市 材木座海岸	日本ウィンドサーフィン協会
10/11～10/14	第37回全日本420級ヨット選手権大会	宮城県名取市 閖上ヨットハーバー	日本420協会
10/12～10/14	オープンスキフクラス全日本選手権大会 兼 プレワールド	兵庫県西宮市	日本オープンスキフクラス協会
10/12～10/13	第70回全日本シーホース級ヨット選手権大会	神奈川県 葉山沖	日本シーホース協会
10/12～10/13	第60回全日本K16級ヨット選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本K16クラス協会
10/17～10/20（予定）	第56回全日本オプティミスト級セーリング選手権大会	愛知県蒲郡市	日本オプティミストディンギー協会
10/19～10/20	29er級全日本選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本29er級協会
10/26～10/27	第16回全日本ブラインドセーリング選手権大会	三河みとマリーナ	日本視覚障害者セーリング協会
10/26～10/27	RS JAPAN OPEN2024 兼 第2回RS AERO全日本選手権	神奈川県葉山森戸海岸沖	日本RSクラス協会
10/26～10/27	第39回テーザー全日本選手権大会	兵庫県芦屋市	日本テーザー協会
10/31～11/4	第89回全日本学生ヨット選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	全日本学生ヨット連盟
11/9～11/10	2024年第4回全日本スナイプ級ミックスヨット選手権大会 2024年度全日本スナイプ級ジュニアヨット選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本スナイプ協会
11/15～11/17	第11回全日本Melges20クラス選手権大会	神奈川県 葉山マリーナ	日本メルジェス協会
11/21～11/24	ミニトン全日本選手権大会	鹿児島県	日本ミニトン協会
11/21～11/23	J/24 全日本選手権大会	福岡市ヨットハーバー	日本J/24クラス協会
3/7～3/9（暫定）	第13回JYMA選抜大学対抗&U25マッチレース 兼 全日本ユースマッチレース選手権大会	愛知県 三河みとマリーナ	日本ヨットマッチレース協会

パリ2024オリンピック セーリング競技日程

第 39 回夏季オリンピック競技大会は、7 月 26 日～ 8 月 11 日までフランスのパリで開催されます。1900 年の第 2 回大会、1924 年の第 8 回大会に次いで 100 年ぶりにパリで行われるオリンピックでは、32 競技 329 種目が実施されます。セーリング競技は地中海に面したフランス第二の都市、マルセイユが拠点です。7 月 28 日～ 8 月 8 日の 12 日間にわたって熱戦が繰り広げられます。レースは現地時間の 12 時（19 時）に最初のレースがスタートする予定です。日本代表をみんなで応援しましょう！

パリ 2024 オリンピック
セーリング競技公式サイト

パリ2024オリンピック セーリング競技日程

種　目	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日	8月1日	8月2日	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日
男子スキフ種目 49er 級	第1～3 レース	第4～6 レース	第7～9 レース	第10～12 レース	メダル レース							
女子スキフ種目 49erFX	第1～3 レース	第4～6 レース	第7～9 レース	第10～12 レース	メダル レース							
男子ウインドサーフィン種目 iQ フォイル級	第1～4 レース	第5～8 レース	第9～12 レース	第13～16 レース	第17～19レース マラソンレース	メダル シリーズ						
女子ウインドサーフィン種目 iQ フォイル級	第1～4 レース	第5～8 レース	第9～12 レース	第13～16 レース	第17～19レース マラソンレース	メダル シリーズ						
男子ディンギー種目 ILCA7 級					第1～2 レース	第3～4 レース	第5～6 レース	第7～8 レース	第9～10 レース	メダル レース		
女子ディンギー種目 ILCA6 級					第1～2 レース	歳3～4 レース	第5～6 レース	第7～8 レース	第9～10 レース	メダル レース		
男女混合ディンギー種目 470 級						第1～2 レース	第3～4 レース	第5～6 レース	第7～8 レース	第9～10 レース	メダル レース	
男女混合マルチハル種目 Nacra17 級							第1～3 レース	第4～6 レース	第7～9 レース	第10～12 レース	メダル レース	
男子カイト種目 フーミュラカイト級								第1～4 レース	第5～8 レース	第9～12 レース	第13～16 レース	メダル シリーズ
女子カイト種目 フォーミュラカイト級								第1～4 レース	第5～8 レース	第9～12 レース	第13～16 レース	メダル シリーズ

SHOWA

ショーワグローブ株式会社
www.showaglove.co.jp

Zeniya
http://www.zeniya-k.co.jp

人と地球環境の未来へ
浮桟橋 ポンツーンの設計･製作･施工

ゼニヤ海洋サービス株式会社

本社 / 大阪営業所
TEL：072-762-7481
FAX：072-762-5482

東京営業所
TEL：03-6228-7231
FAX：03-6228-7232

九州営業所
TEL：092-692-2562
FAX：092-692-2563

NORTH SAILS

Mathew Belcher / Will Ryan AUS

470

信頼の証し

THE
SAILMAKER
OF CHOICE...

420

Diogo Costa/Pedro Costa POR

Raul Rios/Mac Agnese PUR

Shoi Fujita JPN

SoftBank
ENEOS

www.northsails.co.jp

NORTH SAILS

JSAF選手強化パートナー

ONE OCEAN NETWORK EXPRESS
SPN Security Protection Network
巴工業株式会社
JAPAN AIRLINES
GTi グロリアツアーズ
YBC ヤマザキビスケット
伊藤超短波株式会社
H/H
J-Will Group
zhik
SHOWA
株式会社丸玉運送
Fujiya Fujiyashoji co., ltd
ラジエ工業(株)

環境キャンペーン協賛社

JFE
YANMAR

JSAF賛助会員

YANMAR
とらや
Fujiya Fujiyashoji co., ltd
Kazi
日建リース工業株式会社
一般社団法人 日本マリーナ・ビーチ協会 Japan Marina & Beach Association
YAMAHA
DAIKO
miki HOUSE
BLUE OCEAN
nippon Compass
NORTH SAILS
Mikasa
SEE@SEA
SAILFAST
SEINO DB SCHENKER Schenker-Seino Co., Ltd.
GTi グロリアツアーズ
人と地球環境の未来へ Zeniya
BASIC Confertas Office
損保ジャパン日本興亜
MS&AD あいおいニッセイ同和損保
Watts
トヨタ自動車東日本
公益財団法人 日本海事広報協会 海の日
HARKEN
RIVIERA RESORT
Benesse
TOYOTA 豊田自動織機
Trans ACT Co.,Ltd.
MARIN PLACE TOKYO SUPPORT FOR SAILING
テクノヒル株式会社 TECHNOHILL
株式会社 宅配
LAGUNA MARINA
AWAITSUBO YACHT HARBOR MISAKI MARINE
SPN Security Protection Network
Performance Sailcraft Japan
PERFECT RISK FOLLOW
SYMPHONITY
SHOWA

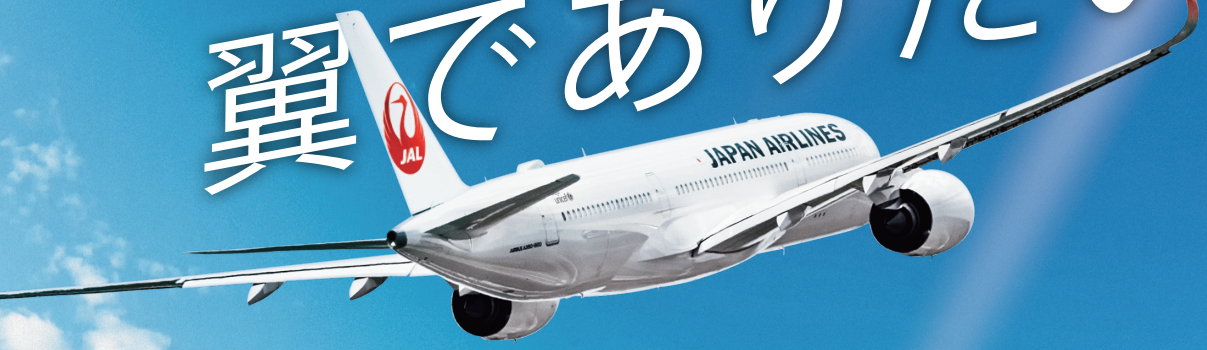
J-SAILING JAPAN SAILING FEDERATION
NO.119

2024年は五輪イヤーです。2023年、オランダで開催されたセーリング世界選手権で男女混合470級では金メダル・銅メダルを取る大活躍を見せました。代表には1チームしか選出されませんが本番での活躍が楽しみです。同時に開催されたパラ種目のハンザ303級では銀メダルを獲得。セーリングは誰もが楽しめるスポーツだと見事に体現してくれました。表紙の470級の写真は平井淳一さんの撮影です。

J-SAILING No.119
2024年3月31日発行　通巻473号
発行／公益財団法人日本セーリング連盟広報委員会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階 902号室
電話　03-6447-4881　ファクス　03-6447-4882
E-MAIL head@jsaf.or.jp
発行人／馬場益弘　編集人／森融果
エディター／西朝子　デザイナー／岡田勇気
定価／300円(JSAF会員は会費に購読料が含まれています)
https://www.jsaf.or.jp

JAPAN AIRLINES

スポーツを愛する人の翼でありたい。



大きな目標に向かって、日々練習に励む人たち。

みんなで力を合わせて、次世代に夢や希望をつないでいく人たち。

JALは、そんな勇気あふれるアスリートたちに寄り添いながら、

一人一人の未来を応援し続けます。

さぁ、これからも次の自分に向かって、力強く飛ぼう。

JAL

明日の空へ、日本の翼

2024年3月31日発行　通巻473号

J-SAILING　JAPAN SAILING FEDERATION

定価300円　NO.119

YBC
ヤマザキビスケット

クラッ活！

毎日に、もっとクラッカー！